

編集後記：赤や黄に色づいた天神中央公園の隣「アクロス福岡」で開催された2009年度秋季大会に参加してきた。ここ2～3年の秋の大会では、500件前後の発表と7～800名程度の参加者があるということで、毎回大盛況なイベントとなっている。大会に参加できなかった方々も「天気」誌上にプログラムが掲載されているので、研究発表のタイトルを見るだけでも最新の研究動向を知ることができるのではないだろうか。

大会期間中に開催されるシンポジウムは一般に公開されており、講演者も分かりやすく話してくれるため、自分の専門外の話でも興味深く聞くことができる。今回のシンポジウムは「東アジアの大気環境」というタイトルで、黄砂による大気汚染やエアロゾルの影響などについての議論であった。その中でも、特に環境医学の講演が面白かった。マウスやモルモットによる実験、黄砂付着物によりアレルギー反応が増強された病態の顕微鏡写真など、普段は目にするのがない研究分野に興味をそそられた。このような機会が、異なる研究分野間の新たな連携につながり新しい研究が発展することを願いたい。

大会シンポジウムの内容は「天気」の解説記事としても紹介される。解説は長文になることが多く、取っつきにくいという印象を持たれている方もいると思われるが、大会シンポジウムの記事は一般向けに書かれ

ているので、専門外の分野を知るためにはうってつけの読み物だと思われる。一方、学会賞、藤原賞、山本・正野論文賞、堀内賞の各受賞者による解説記事は、専門的な内容が盛り沢山で、その分野の最新情報や研究成果に至るまでの道のりが詳しく記されており、多くの原著論文を読む労力をかけずに手軽に勉強するためにも重宝する。気象学という一つの分野でさえ学問の細分化が進む傾向にあるが、自分の専門外の分野の動向を知るとはますます重要となると思われるので、解説記事をぜひ活用していただきたい。

今回の大会開催中、休憩時間や食事中に馴染みの研究者が顔を合わせた時の共通話題と言えば、行政刷新会議の事業仕分けであった（発表会場の壇上から事業仕分けを口にする強者もいたが…）。その是非や問題についてはここに記すことではないが、解説記事と同じく一般の人にも分かりやすい説明を行うということは、公的資金（税金）の使途説明のためには重要である。もっとも、口先だけの説明責任云々よりも、本当は自分の専門について誇りと自信を持って研究や業務を実行し優れた成果を出すことが、納税者への期待に応えることになると思っている。「天気」が様々な状況で活用されることを祈るとともに、皆さまからの分かりやすく面白い記事の投稿をお待ちしています。

（佐藤晋介）